

パブリックコメント 意見まとめ

NO.	関連部分	ご意見	市の考え方
1	P13 基本構 想の概 要	<p>「恵まれた自然環境、豊かな地域資源を生かした魅力あふれるまち」を旨とするようになっていますが、葛城山系や龍門山（関西の100名山、近畿の100名山）を生かした紀の川市のまちづくりの構想もスペースをとってほしいと思います。</p>	<p>まちづくりの構想につきましては、平成29年度に9年間の基本構想を定めております。基本構想では、具体的に葛城山や龍門山とは記載しておりませんが、「点在する観光資源の効果的な活用などによって交流を活性化させ、市民と市に関わる全ての人がいきいきと暮らすことができるまちを目指す」となっております。</p> <p>今回いただきましたご意見につきましては、基本施策3-3-1「観光資源を発掘・活用した観光振興」における主な取組方針①「誘客・周遊化の促進」における今後の事業展開の参考とさせていただきます。</p>

パブリックコメント 意見まとめ

NO.	関連部分	ご意見	市の考え方
2	P19 重点プロジェクト	<p>19ページ 重点プロジェクトの初めに、 「(1) 目標人口への挑戦 本市の人口は、人口推計を約 1,500 人下回っており、このままの推移では、基本構想に掲げた 2026 (令和 8) 年の目標人口約 60,000 人の達成が非常に困難となります。」 とあり、様々な取組みに期待するところではあるが、 2060年に約52%、3万4千人になるという推計のほうが目標より、より信憑性が高いと思われる。 なぜなら、上記に述べられた通り、前期計画では既に推計値を1500人下回っており、和歌山県はもとより日本全体が推計を下回っているからだ。 推計値が2018年で下方修正されているのは、これまでの様々な努力が成果を生みず、むしろ人口減少を加速させており、後期計画においても反省がないまま進めばまたもや目標に及ばず、推計値を下回るのではないかと危惧する。 そこで、本計画を実施するうえで、やっていただきたいのは ① <ふりかえり> 前期計画と目標の乖離の原因分析 自然減と社会減それぞれについて、これまでの施策の効果測定の上で、後期プロジェクトの優先順位と予算の配分を考えなくてはならない。(どこかのプロジェクトを並べるだけでは頼りない。) ② <強みの強化> 強みを徹底的に鍛えて日本一にする 現状の強み、弱みを分析してそれぞれに対応するだけの予算、人材、時間のどれも余裕がない。一極集中、一点突破を考える。 例えば、A教育環境日本一、B健康寿命日本一、C6次産業化率日本一が考えられる。Aは近大と高校の連携、Bは健診率100%,Cはフルーツ王国のブラッシュアップで可能だ。一つに絞る覚悟が必要。 ③ <日本一を情報発信> 日本一へ取り組める住民、発信できる住民を組織 日本一プロジェクトを官民一体となって推進することとしてコラボできる市民を集め、同時に情報発信してくれるインフルエンサーを増殖させる。結果、住み続けたい、住んでみたいまちにしていく。 計画は玉虫色にならざるを得ない。しかし、実施は特化して、突出しなければ内外から評価されない。明石市の例のように世間からの批判を乗り越えてこそ評価される。 最後に、3万4千人を想定したに裏計画を作って欲しい。そこから新しい発想が生まれるはず。どこもやっていない！ 不都合な真実(人口減少)に目を背けず、異次元の実行力に期待します。</p>	<p>限られた経営資源の中で、選択と集中による効率的・効果的な行政経営を行っていくうえでの貴重なご意見とさせていただきます。 今年度(令和4年4月～令和5年1月)は、転入者数が転出者数を上回るいわゆる社会増の状況となっておりますが、コロナ禍による特殊な状況下での短期的なものなのか、若者定住施策などの移住や定住を促進する施策の効果によるものか、ご意見のとおり原因の分析が必要であると考えています。 なお、3つ目のご提案につきましては、5-2-2「地域の活性化と移住・定住環境の充実」における主な取組方針③「シビックプライドの醸成」において、紀の川市の推奨意欲を高め、魅力や情報を積極的に市民の皆様に発信してもらえるような機運を高める取組を関係課で検討してまいります。</p>

パブリックコメント 意見まとめ

NO.	関連部分	ご意見	市の考え方
3	P83.84 都市基盤	<p>都市基盤整備、道路や橋梁などについて、私が常々思っている事が有ります。</p> <p>海神川が紀の川にそそぐ川口に橋を架けて欲しいと思います。現状では紀の川右岸で和歌山市から岩出市、紀の川市の井阪橋まで一本に繋がっています。ところが井阪橋北詰から海神川箇所（紀の川右岸）堤防に橋が無いので市立体育館や市民公園へ最短でいけません。態々県道（打田大宮線）迂回して下井阪～花野を通行します。</p> <p>この橋が出きれば、</p> <p>効果</p> <p>①桃山町や貴志川町の河南から市立体育館へのアクセスがよくなる。</p> <p>②竹房橋まで紀の川右岸が繋がりサイクリングロードとして魅力が高まる。（和歌山市から紀の川市の紀の川を周遊するコースができる。）</p> <p>③洪水の時の遊水地が多くの人々の目に触れることにより、効果的な利用が図られる。例えばグランドゴルフやパークゴルフのコースとして、整備されれば利用する者にとって有りがたい。（グランドゴルフは若者広場の多目的グランドを利用も曜日や時間帯に制限あり。）</p> <p>留意点</p> <p>海神川の紀の川への注ぎ口は、紀の川洪水時の遊水地として平成の初め7haの面積があったがその後和歌山市六十谷の大井関浚渫の土砂でこの遊水地を埋め立てている。現在では、遊水地としての機能をどれだけ果たしているだろうか？洪水時に備えた頑強な橋が必要で、場合によっては、海神川の溜った水を紀の川に排水するためのポンプアップ設備が必要になるかもしれない。</p>	<p>今回のご提案につきまして、県道桃山下井阪線の井阪橋北詰付近から市民体育館南の市道花野竹房橋線を海神川に橋梁を設置し結ぶ道路の新設と理解いたしました。</p> <p>ご意見のとおり、多くの効果や必要性を感じておりますが、市単独での事業化は困難であり、国・県と連携しながら進めていく必要があります。</p> <p>今回は、個別の路線を取り上げての記載はしておりませんが、4-1-2「道路や橋梁などまちの基盤整備」における主な取組方針②「市道の整備・充実」において、他の路線も含めて検討してまいります。</p>

パブリックコメント 意見まとめ

NO.	関連部分	ご意見	市の考え方
4	P85.86 4-1-3 公共交通ネットワークの充実	<p>急速な少子高齢化や人口減少、核家族化、過疎化が進み、また、人口減少と自家用車が普及したことなどが理由で、地域公共交通の収支率は低く鉄道は減便され、バス路線は廃止され、特に高齢者や障害者などの交通弱者が地域で増大している。</p> <p>高齢者の生活は、一人暮らし高齢者や高齢者世帯が多い状況で、運転免許証を保持していない高齢者が増加している。特に免許をもっていない高齢女性は多いし、免許をもたない障害者も多い。</p> <p>市内をコミュニティバスが走っているが、バス停から自宅までの距離が遠かったり、膝が悪くてバス停に行くのも辛い、買い物や荷物をもって帰宅するのが大変。足腰が弱りあまり長く歩けない等日常生活に必要な買い物や病院に通うのが困難な人が増えている。本当は様々な診療科の医者にかかりたいが受診を控えるようになっている。</p> <p>コミュニティバスは本数が少ない、思った時間に利用ができない、バス停が遠いなどの課題がある。それに加えて紀の川市は広範囲であり、集落が点在しており、市民の生活を支えるためには、コミュニティバスだけで移動手段を確保することは到底無理で、結果として住み慣れた地域で生活が送れず、やむなく地域を離れることになる方もできている。</p> <p>この直面している地域公共交通の課題は、市民の生活や生命にかかわっているし、過疎や地域の自治活動・まちづくりにもかわる問題であり、重要課題である。</p> <p>また、地域公共交通の前期基本計画の取組状況と課題についての記述中、「公共交通ネットワークの充実」に関するこれまでの取組について、市民満足度が、近年の市民意識調査において、全調査項目中最下位となっているため、誰もが利用しやすい地域公共交通の確保が必要です。(7頁)としている。</p> <p>市民が日常生活を不自由なく送るための移動手段についてコミュニティバスだけでなく、ドアツードアのタクシーなどの他の交通手段の検討を行い、経済的で利便性の高い地域公共交通計画を策定し取り組むべきであり、長期計画に明文化すべきです。</p> <p>長期総合計画 修正すべき点について</p> <p>①85頁 「目指す姿」 現記述では、既存の鉄道やバスだけしか取り組まないように受け止められます。 (修正案) 目指す姿【鉄道やバス、乗り合いタクシーなどの公共交通を有機的に結びつけることで、市民が利用しやすい公共交通ネットワークが構築・維持されているまちを目指します】</p> <p>②85頁 「現状」に次の文を加える ○「コミュニティバスは、本数が少ない・思った時間に利用ができない・バス停が遠いなどの利用課題がある。また高齢者を中心に、買い物や病院通いなどの交通弱者が増加し地域で生活しづらくなっている」</p> <p>③85頁 「課題」に次の文を加える ○公共交通空白地域の解消に向けた取組が必要です</p> <p>④86頁 「主な取組方針」の上から二番目の○印を次のように修正する 市民が日常生活を不自由なく送るための移動手段についてコミュニティバスだけでなく、ドアツードアのタクシーなどの他の交通手段の検討を行い、経済的で利便性の高い地域公共交通計画を策定し取り組む。</p>	<p>1点目のご提案につきまして、「鉄道やバスなどの公共交通」の表現で、その他の交通手段も含めておりますこと、ご理解願います。</p> <p>2点目のご提案につきまして、市民意識調査の結果において、施策の満足度が低いこと、交通手段に不便と感じている市民の割合が半数以上であることを認識しており、総合的な現状に関する表現となっておりますこと、ご理解願います。</p> <p>3点目のご提案について、課題において「公共交通の維持・確保に向け、必要な支援の検討・見直しを行う必要があります」としており、主な取組方針①「公共交通の維持・確保・充実」において、「「地域公共交通計画」に基づき、地域巡回バスの路線を再検討し、通学や通院、買い物など、日常生活の利便性維持・向上につながる公共交通ネットワークの再構築を進めます」と記載しております。これらにご提案の要旨を含んでいると考えております。</p> <p>4点目のご提案につきまして、将来にわたって持続可能な公共交通ネットワークを確保するためには、各交通手段の特性を活かした適切な役割分担が重要だと考えております。主な取組方針①に記載の次期「地域公共交通計画」において、既存の交通手段を最大限活用したうえで、ご提案の趣旨を含めた補完する個別具体的な新たな交通手段については、紀の川市地域公共交通活性化再生協議会において検討することとなるため、原案のとおりとさせていただきます。</p>

パブリックコメント 意見まとめ

NO.	関連部分	ご意見	市の考え方
5	P95.96 4-1-3 豊かな 自然環 境の保 全	<p>紀の川市は「人が行き交い 自然の恵みあふれる 住みよいまち」、「恵まれた自然環境、豊かな地域資源を生かした魅力あふれるまち」を目指すとして銘打っていますが、少なくとも前期の取り組みの中では、5つの柱のうちの一つ「快適で環境と調和するまち ～ともに自然と生きよう～」の中に「自然環境 豊かな自然環境の保全」で「河川清掃や河川の保全・整備を推進するとともに、林道を随時パトロールし、森林へのアクセス道路の維持管理」に3件行ったとあるだけで、がっかりしました。清掃、整備、パトロール、道路の維持管理といった内容は、自然を単に林業や農業のための利用という視点でしかとらえていことが誰の目にも明らかで、残念でなりません。「自然の恵みあふれる」と言うのであれば、紀の川市のどこが生き物にとって貴重な多様性の高い地域で、さらに言えば紀の川市にどんな生き物がどこにいるのかという基本的な資料を得るための調査が絶対が必要です。ぜひ後期の基本計画に盛り込んでほしいと思います。また、普及啓蒙活動として、生徒や学生に対して自然環境を学ぶ事業を積極的に行うこともぜひとも入れてください。自然は基礎調査や積極的な保全活動をしないと現状の維持すらできませんし、そういう知識や興味を持つ若い人材を育成することは、将来自分たちが住む紀の川市の自然環境を自分たちで守っていくという意識を高める大きな力になると思います。</p> <p>後期の重点プロジェクトも「呼び込む・稼ぐ・育む・未来を作る」の4つを挙げていますが、やはり環境の視点は全く抜け落ちているように思いました。「豊かな自然環境の保全」という項目はありますが、その内容は、森林環境の保全（人工林の間伐、病虫害の予防・駆除）、有害鳥獣の捕獲、林道や施設の保全などで、整備が中心です。一度失った自然環境や自然の多様性は、その何十倍もの時間と努力、経費をかけたとしても元には戻らないのだということをぜひお考え下さい。</p> <p>もう一つ、もうすぐ市政20周年がやってきますが、紀の川市史を作る、ということも全く触れられていません。作成の際には自然環境についてしっかりとした記述を入れてほしいと考えているのですが、おそらく声を上げなければ、以前の粉河市史などと同じく産業や文化、歴史のみで、普通どの市の市史にも入っている自然環境という項目がすっぽり抜け落ちたものになるのではと大変危惧しています。20年という区切りに、どこにも誇れるような内容の濃い紀の川市史を作ることもぜひ盛り込んでほしいと思います。</p>	<p>ご意見を受け計画案の再度見直しを行い、基本施策4-3-1「豊かな自然環境の保全」における課題に「豊かな自然環境を保全し、将来に継承するための啓発や教育が必要です。」を追加し、その対応として主な取組方針③「自然環境保全につながる教育・啓発の推進」に「関係機関と連携し、河川や森林などの環境を保全し、ホテルやオニバス、キイシモツケ、リュウノヒゲモなどの希少な生物の保全に取り組むとともに、豊かな自然環境を後世に引き継ぐため、地域の環境保全団体などと連携しながら、小中学校において児童生徒の環境保全意識の向上につながる教育活動に取り組みます。」を追加しました。ご提案の基礎的な資料を得るための調査につきましては、必要に応じて県をはじめとする関係機関と連携を密にしながら検討をしたいと考えております。</p> <p>また、市史に関しましては、編纂時期が現在のところ定まっていないため、計画への記載は行っていませんことご理解願います。今回のご提案は市史編纂時における貴重なご意見としてお受けさせていただきます。</p>